様式１：小学校

令和５年度　岩手県英語教育改善プラン

目標

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定の割合６０％以上

〇思考・判断を促す言語活動の充実に向けて、公表・達成状況の把握の重要性の共有を図る

１．現状

改善が進んだ点

①「外国語の授業が好き」と回答する児童の割合が**増加。**
（R3_73%　R4_76%）
県学習定着度状況調査
児童質問紙（５年）

②小中学校が連携していると回答する中学校の割合が**増加。**
R4英語教育実施状況調査
（R3_66.4%　R4_82.2%）

未だ改善が必要な点

❶授業中における児童の英語による言語活動50%以上の割合が**減少。**
（R3_91.6%　R4_89.3%）

❷話すことを評価するパフォーマンステストの状況「実施あり」の学校の割合が**減少。**
（R3_97.1%　R4_93.5%）

❸「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定・公表・達成状況の把握の割合が**減少。**

	設定	公表	把握
R3	58.8%	14.5%	42.9%
R4	52.6%	28.6%	45.3%

２．分析

①目的や場面、状況等を明確に設定した言語活動の重要性や、必然性のある単元のゴールに向かうことのよさを共有できたものと考えられる。

②研修会等を通じて各種調査結果等を確認したことで、外国語教育と小中連携の相関についての認識が高まったと考えられる。

❶ ❷ペアでのスモールトークから全体共有への展開を研修会等で推奨してきたが、コロナ感染症への対応から実施を控えた傾向。**話すことの停滞**が、他の領域へも影響を及ぼしていると考えられる。

❷❸設定、公表及び達成状況の把握の意義を研修会等を通じて確認できたものの、**学校体制としての作成・活用のイメージが浸透していない**。「CAN-DOリスト」を基にした、計画性のある指導と評価の一体化についての一連のサイクルの理解が進んでいない。

３．施策・事業

①②小中をつなぐ外国語推進研修会

全教育事務所で継続実施。講義及び学習到達目標達成に向けた**モデル授業の参観**を通して、指導と評価の一体化について小中学校の教員が**協議**し、授業力向上を目指す。

②小学校外国語専科教員研修会

小学校外国語専科教員を対象とする悉皆研修会において、中学校との滑らかな接続に関して、小学校側から働きかける視点等を児童生徒の資質・能力の育成につなげる視点を共有する。

❶❷❸小中をつなぐ外国語推進研修会（小・中連携）

・小中学校の教員が、児童生徒の言語活動における**具体の姿**で協議する。

・**小中連携**を視点とし、互いの校種での指導と評価について考える機会とし、意識の向上を図る。

・モデル授業提示の際は、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の「公表」の具体、「パフォーマンステスト」と評価の具体等についても示すこととし、**評価サイクルの理解促進**を図る。

・児童と「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の共有することを促進し、ICTの活用を含む**自律的な学習を促す**ことの重要性を確認する。

様式１：中学校

令和５年度　岩手県英語教育改善プラン

目標

求められる英語力を有する生徒の割合45％以上

〇中３のライティングテストを年5回以上
〇学年に応じた言語活動の高度化

１．現状

改善が進んだ点

①学習到達目標を公表している学校の割合が**増加。**
（R3_47.7%　R4_72.6%）

②英語担当教員の授業における英語使用が**増加**
（R3_74.0% R4_78.8%）

未だ改善が必要な点

❶授業中における生徒の言語活動の割合が**横ばい**
（R3_81.8%　R4_83.8%）

❷求められる英語力を有する生徒の割合が**横ばい。**
（R3_42.9%　R4_42.6%）

❸求められる英語力を有する教師の割合が**低い。**
（R3_21.1%　R4_ 19.9%）

２．分析

①②**「まとまりでの授業づくり」**による指導と評価の一体化を研修会、訪問等を通じて推進。学習到達目標を生徒と共有する意義や効果が浸透してきたものと考えられる。
　更に、指導主事間で**方向性を揃え、助言の柱**としたことが、一単位のみならず、単元のまとまりでの教師の英語使用増加につながったもの考えられる。

❶パフォーマンステストが学年問わず**「話すこと」に偏っており**、「書くこと」の1.5倍。
❶**学年に応じたライティングテストの実施回数**に課題。県平均1年生3.3回に対し、３年生4回と少ない。
❷教師の英語使用は増えている一方、**生徒とのやり取りの質**と、**言語活動の高度化**に課題。

❸言語活動の高度化につながる教師の英語使用に依然課題がある。

３．施策・事業

①②小中をつなぐ外国語推進研修会
　全教育事務所で継続実施。講義及び学習到達目標達成に向けたモデル授業の参観を通して、指導と評価の一体化について協議し、授業力向上を目指す。

①県独自調査の実施と活用
・育成すべき資質・能力を明確にした調査問題の作成
・調査結果を活用した訪問指導の全県展開

❶❷授業改善方策シート、CAN-DOリストの作成
３年間を見通した言語活動の高度化、特に「書くこと」の言語活動をより一層推進することで、生徒の英語力向上を目指す。３年生でのライティングテストの回数を５回以上とする。

❷❸小中をつなぐ外国語推進研修会（小・中連携）
英語授業実践セミナー（中・高連携）
　小中高連携を視点に、言語活動の高度化を授業ベースで協議する。また、教員の英語力向上の意義について、言語活動の高度化の視点から具体の授業場面と結びつけて考える機会とし、意識の向上を図る。

❸英語個別訪問
　過年度訪問対象者に対し、先導的なオンライン研修等への参加を働きかけ、授業力向上と一体的に英語力向上を目指す。

様式１：高等学校

令和５年度　岩手県　英語教育改善プラン

目標

求められる英語力を有する生徒の割合51%以上

○「単元等のまとまりで資質・能力を育成する授業づくり」のさらなる推進
○「指導と評価の一体化」を踏まえたパフォーマンステスト内容の充実と回数の増加

１．現状

改善が進んだ点

①求められる英語力を有する生徒の割合が、**微増**。
(R3_49.0% R4_50.0%)

②学習到達目標を公表している学校の割合が、**増加**。
(R3_62.2% R4_79.7%)

未だ改善が必要な点

❶授業中における生徒の言語活動の割合が、**横ばい**。
(R3_87.7% R4_85.5%)

❷スピーキングテストとライティングテスト両方を実施した割合が**横ばい**。
(R3_77.3% R4_76.4%)

❸求められる教師の英語力を有する割合が、**減少**。
(R3_71.9% R4_67.8%)

２．分析

①②「**まとまりでの授業づくり**」による指導と評価の一体化を研修会、訪問指導等を通じて推進。特に訪問指導では、身に付けさせたい資質・能力を視点とした協議への転換を図ってきたことが要因と考えられる。

❶「論理・表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」において、授業中の生徒の言語使用割合が引き続き低い。
❷「論理・表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」のパフォーマンステストは「書くこと」が中心で、スピーキングテストの実施回数が少ない。（※「ライティングテストのみ」のパフォーマンステスト実施割合が英コⅠやコ英Ⅱ・Ⅲの約3倍）
❸言語活動の質的改善が引き続き求められる。（「やり取り」を意識し、複数領域を結び付け言語活動のより一層の充実）

３．施策・事業

①リーダー教員育成研修及び授業実践推進教員育成研修（中高連携）
授業改善や教員の指導力向上の具体的な取り組みを中高の授業実践から学び、勤務校や近隣中高へと還元。

①②授業改善シート、CAN-DOリストの作成
年間指導計画と結びつけた実行性のあるCAN-DOリスト作成の推進及び訪問指導での活用。

❶❸英語ディベート活用研修会（中高連携）
授業におけるディベート活動の導入を推進し、「論理・表現Ⅰ」や「英語表現Ⅱ」における言語活動の充実を目指す。

❶❷❸英語授業実践セミナー（中高連携）
学習指導要領に基づいた授業提案と、中高連携を踏まえた授業改善にかかる研修。

❶❷❸英語訪問指導
過年度訪問対象者に対し、先導的なオンライン研修等への参加を働きかけ、授業力向上と一体的に英語力向上も目指す。